



【令和五年度オンライン道徳科学研究フォーラム②】

『道徳科学の論文』を現代的視点からとらえる(1)

人間・生命・精神の進化

モラロジー道徳教育財団 道徳科学研究所

はじめに

皆様こんにちは。本日はオンライン道德科学研究フォーラムにご参加いただき、誠にありがとうございます。本日は全国から七〇名余りの皆様にお申込みいただきました。

さて、本日のテーマは『『道德科学の論文』を現代的視点からとらえる（1）人間・生命・精神の進化』です。道德科学研究所（道科研）では、令和八年（二〇二六）の財団創立百年に向けて、廣池千九郎博士が『道德科学の論文』の第三緒言の第二条「将来モラロジー研究所において引き続き研究を必要とする諸項目の概要」で提示された三四項目の研究課題に取り組みつつあります。

51
具体的には、廣池博士がどのような意図で、これらの研究課題を後世に託したのか明らかにすること。これらの研究課題について、これまでに道科研及び内外の学会において、どのよう

道德科学研究所所長・教授

犬飼 孝夫

な研究がなされてきたのか整理すること。そして、これらの研究課題について、いかなる課題・問題点が残されているのか検討することです。そして、その目的は、創立者廣池千九郎博士から託された研究課題を現代科学の見地から再探究することにより、モラロジーの深化・発展と現代的展開に必要な研究を推進することです。

本日のフォーラム「『道德科学の論文』を現代的視点からとらえる（1）人間・生命・精神の進化」は、まさに廣池博士が後世に託された三四項目の研究課題に、現代科学の光を当てる試みと言えます。

さて、本日のフォーラムに登壇していただく皆様を登壇順にご紹介したいと思います。

最初に、道科研教授・研究主幹である大野正英先生には、

「モラロジーにおける自然科学研究の意味とこれからの課題」と題してご発表いただきます。大野先生には、本日のフォーラムのコーディネーターも務めていただきます。

続いて、道科研客員教授の立木教夫先生には、「廣池千九郎の遺伝学研究の特色」と題してご発表いただきます。廣池博士が後世に託された三四項目の研究課題には、遺伝に関する研究項目があります。具体的には、一代獲得形質の研究、精神遺伝の研究、社会遺伝の研究の三つです。立木先生には、本日は特に一代獲得形質の遺伝に関する研究についてお話しいただけるものと思います。

休憩を挟みまして、道科研客員教授の小山高正先生に「廣池千九郎が重視した「精神作用」とは何か」と題してご発表いただきます。小山先生には、廣池博士が後世に託した三四項目の研究課題の中にある、「道徳・信仰及び肉体の相互関係の研究」、「道徳・信仰及び寿命の相互関係の研究」、「精神作用と伝染病との関係につきての研究」をはじめとする、精神作用に関する五つの研究課題についてご発表いただけるものと思います。

最後に三〇分ほど質疑、懇談の時間がございます。オンラインでご参加の皆様には、チャットにご記入をいただく形でご意見、ご質問をお寄せいただければ幸いです。

さて、本日のフォーラムに続きまして、来年二月十七日（土曜日）と十八日（日曜日）には、「温故知新―財団創立百年と

新たな変革の時代に向けて」というテーマで、柏キャンパスにおいて道徳科学研究フォーラムを対面とオンラインのハイブリッド方式で開催する予定です。二月のフォーラム開催につきましては随時ご案内申し上げますので、ご参加についてよろしくご検討いただければ幸いです。

本日のオンライン道徳科学研究フォーラムを通じて、現代科学の視座から一緒にモラロジーについて考えることができれば幸いです。一七時までの長丁場です。どうぞリラックスしてご視聴、ご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。

※ 編者注―このフォーラムは令和五年十一月十八日に開催されたものです。